

教育の結果に非常な差異を生じる。

だからして、幼稚園や學校の方では、なるべく其教育の方針を家庭と一にしようといふので、いろく〜と考へを廻して居つて、其方便として例令ば懇話を開いて父兄を招待して互に教育上の意見を聞き打ち合はせたり、又は平生でも來て子供の有様を見て貰つたり其他通信簿などで家庭に向つて、子供の心身の發達の有様を知らせる様な事をして居るのである。

(擊水)

### 復讐心の煽動

美波ゆや子

一體に子供と申すものは、私の強いものであります。一方から申しますと、小さい時分から其我を養つて行くことは、大切な事でありまして、將

來成長の後立派な守る所のある人物となさうと思ふには、之を適當に培養して行くことにあると思ひます。

然しながら、之は餘程氣を付けませんで、たい無關と我を通して我儘にさせて行きますと、必ず我儘一偏な、人はどうでも自分さへよければよいといふ様な者になつて行きます。ですから、無理な所へ我を通してといふ事は、どうしても子供の時から抑制して行かねばなりません。

其私の強き性質から、子供と云ふものは、餘程復讐心に富んで居ります。此復讐心といふ事も、人間には適當に培養されることも必要な場合がありますませうけれど、然し一般の場合に於ては不徳の様です。自分が苛い目に遭つたから、遭はした人をも同じ目に合はせるといふので、子供の發達し

ない道義心どうぎしんとしては、かゝる情じょうの存在そんざいすること極めて自然じぜんです。然し既しにかゝる情じょうは一般いっぱんに不徳ふとくの種子たねであつて見れば、子供こどもを養育よういくして行く上うへに於て、成るべく自然じぜんに消滅しょうめつさせて行きたいのですが時ときとすると、吾々われわれは、反かへつて此情このじょうを煽動せんどうし此情このじょうを培養ばいようするといふ様な所置しよちを取とつて居ゐることは珍めづしくありますまい

『オー、お前まへを打うたかい、可愛相かわいそうに、夫おとじや母かあさんが打うつてやらう』とはよく聞く言葉ことばでありませぬか。子供こどもは無生物むせいぶつ例令れいれいば石いしくれでも、木片きへんでも皆みな自分じぶんと同じ様やうな考かんがへあり、感かんじもゐる物ものとして居ゐます。ですから、時ときによると、石いしにつまづいて泣なき出だす。其時そのときに傍かたわらから、其泣そのなくのを止めようと思おもつて、『オー此石このいしが坊ぼろを痛いたい目めに遭あはせたの？ 悪わるい石いしだと、打うつてやらう、さ、打うつてやったから泣なくの

を止とめし』考かんがへて見みますと、こう云いふ例れいが澤山たくさんありませう、一時いちじ子供こどもの泣なくのを已やめさせる爲ためならば、他ほかにいくらも方便ほうべんがありませうに、此様このやうな方便ほうべんを使つかふといふのは、さなきだに、我がの強つよい、復たが離心しよしんの盛まかんな子供こどもを一層いっそう煽動せんどうして此情このじょうを培養ばいようする様なものでありませう。

人を憐あはれむとか、人ひとのつらさを察さつしるとかといふ高尚こうしょうな道徳どうとくの種子たねは、出で来るだけ早はやくから培養ばいようして行ゆきたいものでありますが、前まへ申もうした様な方法ほうほうは、どうしても此考このかんがと反はん對たいして居ゐませう。ですから、あの様やうな場合ばあいには、こちらが痛いたい目に遭あつたから、向むかふも痛いたい目に遭あはせて夫それで、泣なき已やませようとししないで、こちらも痛いたいが、向むかふも同じ様おなじやうに痛いたいのですから、我慢がまんをふしとか、向むかふも痛いたいのですから、撫なで、おやりとかいふ様やうにしたらば宜よろし

いと思ひます

子供が無生物とか、動物などを自分と同じ様な心を持って居ると思つて、夫等を自分の仲間と見る事は、大變趣味のある問題でございまして、之に依つて、小さな道徳上の感情を興へることが、澤山出来ずのに、考へないで居ますと、夫が出来ないのみならず、反つて反對の情を煽動する様な場合が澤山あるのは歎かほしい事と思ひます

家庭閑話

その子

▲女の子三人ある家には盜賊入らず、日々三通以上の郵便ある家は、どうにか經濟の融通つく道ありとは古人より傳はれる諺にこそ。

▲去りながら、誰か女の子を不生産的と敢て言ふ。

さらば男の手にて何程の生産をなし得べしや、誰か一家の妻を勢力なしと敢て言ふ、并びが岡の法師は言はずや「されば女のかみすぢをよれる綱には大象もよくつながると。

▲家庭の治まらぬとて、もはら男をのみ咎むべしやは、さるは主婦の意氣地なきことをぞあらはする、大象をもつなきとむべき女の力もて、何すれぞ一人の男を得つなござる事やある。温順なる妻は夫の命令者なりと申す事の侍らずや An obedient wife commands her husband.

▲戀は神聖なりとは、何日如何なるすき者の言ひ出でたりけん、戀こそ曲物、嫉妬の姉妹、萬の罪の母なるを、さてもく、何れは玉の盃そこなきにも似たるかなど口すさみけんえせ詩人原の晝寢の言の葉にもやあらん。